みんな笑顔で民謡を楽しもう！～いわて生協・歳末コンサート

12 月 17 日と 18 日、いわて生協は「みらいみんよう」メンバーによる歳末コンサートを開催しました。17 日の綾姫ホール（大船渡市綾里地区）、18 日のグリーンピア三陸みやこ（宮古市田老地区）とも仮設住宅の居住者を中心にたくさんの方が訪れました。

全国の民謡を演奏するみらいみんようの皆さん。

「みらいみんよう」とは、「民謡と民舞の魅力を、100 年後の子供たちへ繋げたい」そんな思いで活動をしているプロジェクトで、民謡を未来の世代へ伝承するべく、三味線の松田隆行さんなどたくさんの方が参加されています。松田隆行さんは、八戸市に生まれて南部民謡の他、幼い頃からの舞台経験で本物のツガルに触れる機会が多く、青森を代表する若手民謡アーティストと幅広いファン層から熱い支持を受けています。2002 年、津軽三味線全国大会三連覇チャンピオンとなり、翌年同大会の唄付け伴奏三味線大会で優勝。また、2005 年五月には津軽五大民謡大会桜花グランプリの栄光に輝いています。

そんな「みらいみんよう」によって、今回は唄、三味線、日舞、尺八、鳴り物の大編成で地元・岩手の外山節をはじめソーラン節や大漁うたいこみなど全国の民謡が演奏され、200 人※を超える来場者の皆さんは手拍子を打ちながら聞き入っていました。※200 人はグリーンピア三陸みやこ、綾姫ホールは 70 人です）

終演後は、会場の外で甘酒とおしるこのお振る舞いもありました。グリーンピア三陸みやこで開場 1 時間前から友達と並んでいたという女性は、「仮設住宅は狭いし、おしるこを作る気も起こらない。おいしくて、ほっとした。来てよかった」と笑顔を見せていました。

会場ではあたたかい甘酒が振舞われました。

この日は、時折り太陽も顔をのぞかせていましたが、朝から小雪が舞う寒い日でした。主催者の一人・いわて生協の組合員理事・香木みき子さんは、「皆さんが笑顔で帰ってくれて、うれしかった。地域を元気にするために何ができるかを考えています。『かけあしの会』では、新製品の開発もしてい

るんですよ。お楽しみに」と話していました。

「こんなにたくさんの方が来てくださると思っていませんでした」と、いわて生協・前副理事長の佐々木みどりさん。「クリスマス、お正月と、いつもならにぎやかなはずの年末年始に独りぼっちで寂しい思いをされている方も多いと思うので、喜んでいただいて何より。これからは、孤独死や自殺が増えるのが心配ですね。特にお連れ合いを亡くされた男性は、どうしても引きこもってしまいます。こういう場に来られるなら、まだ大丈夫なんですが……。ここに来られていない方たちを、どうやってお誘いするのかも今後の課題ですね」と話していました。

仮設住宅は原則 2 年の「仮の住まい」ではあるものの、2 年という長い期間です。日々の生活の場であり、仮設住宅の生活を暮らしやすく、より快適なものとするハード、ソフトの両面からの支援が求められています。仮設住宅は学校の敷地、公園、キャンプ地などの高台の公有地に建てられることが多いため、入居者からは「買い物や通院が不便」という声が少なくありません。高齢者は足・腰が悪く、自分で車を運転して外出することが困難な方が多く、同居・近居の子どもや親戚に運転を依頼するという方がみられました。買い物、通院、趣味活動等の外出を支援する巡回バス、送迎サービス、乗り合いを支援するしくみ等が求められています。外出の足を確保する他、仮設住宅や近隣に商店街を設けることも有効である。ヒアリング時、宮古市のグリーンピア三陸みやこ（248 戸）においては、商工会議所の協力もあり、早期にミニ商店街が設置されていました。市役所としては、100 戸を下回るような小規模の仮設住宅の場合は、商店街の設置は難しいため移動販売車の活用も考えられているとのことで、地域の実情にあわせ、きめこまかな支援が必要です。

いわて生協組合員・佐藤サチ子さんにお話をうかがったところ「仮設住宅は狭いので、どうしても自宅で過ごすようにはいきません。こういうイベントがあると、ほっとしますね。楽しかったです。発災から 9 カ月が過ぎましたが、仕事や生活で困ったこと、不安なことはたくさんあります。たとえば仮設住宅にはお仏壇を置けません。この地域では、自宅でお葬式をあげて、お仏壇を置くのが一般的なのに、それができないんです。おうちでご供養ができないのは寂しいですね。それから、仕事がないので若い人たちは都会に出て行ってしまい、過疎化が一層進むのも心配です。不安の多い中、生協の役割は大きいと思います」と語ってくれました（佐藤さんは田老ではなく田野畑村の仮設住宅にお住まいです）。